

～葛川から見えてくる二宮の未来～

清掃活動 20 年記念誌



葛川をきれいにする会

<https://kuzugawa.sakura.ne.jp>



「葛川をきれいにする会」の紹介

団体名	葛川をきれいにする会
代表者名	長田 信夫
清掃参加平均人数	約 30 名 (p24 参照)

主な活動

- 1 葛川清掃 16 回/年
(2001 年 10 月より 2021 年 6 月 20 日で通算 300 回)
- 2 水質検査 4 回/年 (水質改善の確認)
- 3 魚類・底生生物調査と小学生対象に「葛川に親しむ会」年 2 回

会員募集情報

- 1 設立 2001 年 10 月 12 日
- 2 主なねらい
○葛川を蘇らせる
○誰もが水遊びできる綺麗で安全な川を目指す(親水性を高める)
- 3 活動日 ・葛川清掃 16 回/年
原則 4月5月6月7月9月10月11月3月の第1第3土曜日
・その他 総会 定例会 水質調査 小学生対象に「葛川に親しむ会」
- 4 会費 2,000 円/年

町民の皆さんへ

私たちは誰もが水遊びできる葛川を目指して活動しています。

私たちの活動に参加しませんか？

目 次

ご挨拶

特別寄稿 1～6

会員等の声 6～16

資 料

活動記念樹桜 “ソメイヨシノ” の紹介 17

朝日新聞・タウンニュース記事 18, 19

葛川憲章・規約 20

二宮町・葛川・会の年表 21～25

葛川清掃記録（集積ゴミ量） 26

編集後記 27

表 紙 絵 奈良 淑子

裏表紙デッサン画 熊谷 優作

ご挨拶

この10月に「葛川をきれいにする会」は、活動を始めてから区切りとなる20年を迎え、清掃は300回を超えました。参加者は都合のよい折に集まり、「川のゴミをひろう」ことでこの歳月が過ぎてきました。

これまでの活動を記念して、「葛川からみえてくる二宮の未来」と題して、シンポジウムを開催することにしました。引地川（大和市、藤沢市）に関わる地域の活動を参考にして、「川のゴミをひろう」ことの意味を改めて考えてみたいと思います。

数十年前、社会は高度成長期になり、首都圏に企業、工場などが建ち、多くの人たちが集まって来ていました。その流れで、二宮にも多くの人に住むようになり、人口も多くなったと思います。下水道や浄化設備設置などは途中で、家庭汚水などが葛川に排出されていたでしょう。ひと昔前には夏に子供たちが泳いでいた葛川が、臭う川になったと思います。この頃に町づくり百人委員会が立ち上がり、その11名の委員が実際に行動しようと「葛川をきれいにする会」を立ち上げました。

それから20年。これまで葛川に不法投棄されたゴミの総計（最初の3年の記録はなく、含まれていない。過去17年のデータ）は、25トンを超える量で、年にすると、1,500kg以上になります。下水道や浄化設備も整いだし、私たちの清掃活動のお陰でしょうか、オイカワなどの魚類や水生生物のコオニヤンマなどが川にもどり、アオサギ等の野鳥も多く見られるようになってきています。

ただ、近年新たな問題がでてきています。不法投棄され、環境の中で分解したプラスチック類の生物への影響です。川から流れたプラスチック類が、海岸に流れ着いたクジラの体内から見つかっています。また、マイクロプラスチックとなり、大気中に拡散していることも観測されています。さらに小さくなったナノプラスチックは食物や呼吸器を通して人体に蓄積、胎盤への集積データも学術論文に発表され、胎児への影響が懸念されています。世界の海鳥調査（2021年11月4日、朝日新聞（朝刊））では、プラスチックに使用されている添加剤が半数の海鳥から見つかり、一部の添加剤には生物の免疫などへの影響が指摘されています。これらのことは、「川のゴミをひろう」ことについて新たな意義を私たちに与えていると考えています。

葛川は二宮町の中心を流れ、多様な生き物が住むようになってきています。このような町は全国的にも多くはないでしょう。春には桜の花や明るい川の音、夏には多くの野鳥、秋には紅葉と冬にも川魚とカワセミなどと、四季折々に豊かな姿を見せてくれています。散策していると、素晴らしい姿を見せてくれて、癒されます。町の貴重な財産です。これからも葛川を大切に、この豊さを維持していきたい。

葛川をきれいにする会代表 長田 信夫

特別寄稿

奈良 淑子

これまでのあゆみなど

奈良と申します。

葛川をきれいにする会が発足したのが 2001 年 10 月頃。二宮町まちづくり百人委員会と云う会が出来まして、その委員の 11 人の方がまちづくりの議論だけでなく実行しようと話し合ったそうです。翌 11 月に町の広報に、葛川をきれいにする会の会員募集の記事が掲載されました。

私はその頃、定年退職をして家に居りましたものですから、広報に書いてありました担当者へ電話致しました。明日の土曜日朝、二宮の西友デパートの近くにある葛川橋に集合して下さい、ゴム長靴とゴム手袋は持参と云うので出かけて行きました。

集合場所に行きましたら、町の議員さんや 30 名位の人達が集まっていたでしょうか。とに角、ごみ拾えとビニール袋はもらいました。女性は少なかったですね。そして、月 2 回、第 1、3 土曜日は集まってごみ拾いする、第 2 土曜日は福祉センターに集まっていろいろ話し合うとのことでした。その最初の日は、わさわさしているうちに終わり、解散でした。

ゴム手袋、胴長靴を自分達で購入された方がいらっしゃいました。胴長は高価だし大変と云う事で、町に頼んで何本か支給される様になりました。でも、全員にはなかったです。そしたら、ボランティアは自費で参加しなさいと事務局の田中さんに言われました。その言葉、身にしみました。今も忘れません。

又、田中さんからごみ収集する所の図面を描くのを手伝ってくれと頼まれました。その書類を毎回町に提出しまして、土曜日に集めたごみを月曜日に町の方で取りに来て持って行ってくれる事になっていました。毎回、どれくらいの量があるのか、何があるのかをすべて記入して出す書類でした。

私は二宮育ちではありません。葛川がどんな川か、どこから始まりどう流れていくかわからないので、それではと事務局の田中さんと中井町の境からずっと流れにそって大磯町の境までみて、葛川の川の形、深み、中州、橋とその名前、ごみを置く場所等を田中さんに聞きながら写生しました。いく日かかけて、田中さんに聞きながら、今日はここまで、次回はどこでとぎれた所からと何日間かかかりましたね。お陰様で川の様子をおぼえられました。

葛川の清掃のことをネットにのせてくれた会員の方がおりまして、それを見たと、東京の人、横浜の人、大磯の人や伊勢原の方が来て下さいました。伊勢原の人は水生生物を調べているそうで、掃除に大分長く参加して下さいました。

私も初めのうちはゴム長靴はいて川の中に入りごみを拾っていましたが、土手の上や道路にもごみがたくさんあったり、川ぞいの木立やら畑にも長年たまったごみが多量でした。神奈川が一番汚い川だそうですから、土手もごみだらけでした。私と他に 2 人、3 人で拾う様になりました。残念ながら、お 2 人は引退なさり、3 人組も今は 3 代目です。

集めたごみは分別しなくてはなりません。空缶、金属、ガラス、燃えるごみなどです。最初の頃は、自転車やオートバイ迄、川の中にありました。又、空のサイフ、カード、免許証や宝飾品がまとめて捨てられていました。今も空のサイフは落ちています。ケイタイも最初はなかった落し物ですが、今はごみの中にあります。

葛川をきれいにする会では、ごみ拾いの他にいろいろ行事があります。6月には福祉祭です。会がやっている内容の紹介です。8月には、富士山の掃除、青木が原樹海のごみ拾いです。夏でも涼しかったですね。唯今は参加していません。バーベQもしてます、場所は二宮の奥でね。12月には研修バス旅行に行っていました。2012年、宮が瀬ダム、2014年、富士浅間神社、白糸の滝、丹那断層と来宮神社、大室山等、他にも忘れましたが、いろいろ行きましたね。掃除だけじゃなくて、見聞を広げて貰いました。一人では選ばない場所に行くのも新しいですよ。

葛川もただ汚い川と云う事ではなく、上流の中州には春になりますとたくさんの菜の花が咲きます。その下には、こいピンクのあつけし草が見事です。上流域の畑から肥料が流れてきまして土の中に溜まってくるのでしょうか。捨てられた菜の花が増えて行ったのでしょうか。ごみばかり見ている時、ほっとする瞬間です。今も春になると川の中にみられます。魚も鳥類もいろいろいます。初めの頃、上流域の石垣の所でイタチを見ました。それなりに自然を楽しんでいます。植物も大地をきれいにする為に生えている。この間、プランターの土が川の土手にすてられて山になっていました。土だからいいかとそのままほっておいたら、そこから雑草がぐんぐん伸びて来て巨大になりました。ぐいっと引っぱると、すぽっと簡単に抜けました。それで捨てられた土の中に肥料が入っていると気付きました。大きな雑草が水ぶくれしているみたいです。野菜も大きくてみずみずしくても、単にみずぶくれしているのかも。

今はごみを集めるのに軽トラックを使わせてもらい、川から橋の上にひもを使って引っぱり上げ、それを軽トラにのせて一か所に集めて分別しています。初めは2台のスノーボードにひもをつけて、ガラガラと引っぱって運んでいました。終わると持ち帰り、洗って又次回に備える、でも、大分割ってしまいました。

前に比べると今はごみの量が減りました。でも、相変わらず多いのはビニール製品です。道路に落ちても川へ、そして海に行くのでしょうかね。空缶や金属類はさびてぼろぼろになって拾われて来ますし、衣類も水を吸って沈んでいます、ビニールはばらばらに切れています。でも、考えますと全部品物で、名前もついていた物で、ごみと云う名前ではなかったです。それも私達がお世話になった品物です。今迄ありがとうございますよね。ごみは臭いし汚いけれど、ありがとうございます、お世話になりましたと今まで一度も言った事がなかったと気付きました。これからは、ごくろう様でした、ありがとうございますと云って拾います。皆さん、ありがとうございます。

特別寄稿

関谷 忠夫

葛川をきれいにする会の思い出

現在の葛川は、たいへんきれいになりました。もう、清流といえる透明さと、近くで感じる匂いの清々しさ。これも、本活動に継続して取り組まれておりますみなさまのおかげです。ほんとうに、ありがとうございます。

今から20年ほど前の2001年。葛川をきれいにする会は誕生しました。当時、二宮町のまちづくり総合計画を策定するにあたり、そこに集った市民委員の中から、「話し合いだけでなく、実際に行動しよう」という発案からはじまりました。

第1回の葛川清掃は、2001年10月13日。葛川橋付近とあります。参加者は10名。発起人で代表だった方のご家族も参加される中で、秋の陽の、あたたかなはじまりでした。

月2回、橋から橋の区間、盛夏と極寒の時期は休み、というスタイルは、発足当時のまま現在にも引き継がれています。

橋の袂では、あちらこちらで自転車が引き上げられ、皆で驚いたことはよく覚えています。また、陽の早い時刻には、家々から流れてくる生活の水を、そのまま受け入れている。そうしたところもございました。

夏の暑い日も、冬の寒い日も、胴長で水に浸かり、少しずつ前進しながら、せっせとせっせと拾い上げます。川から町を見上げる機会はもちろんはじめて。水はあくまで心地よく、まるで、みんなで宝物を探しているようでもありました。

この活動を通じてたくさんの人と出会いました。勢いある声と、笑顔の優しかった代表、赤色の野球帽がトレードマークの副代表。若い方も加わり、家族参加もあり、川組、陸組、仕分け組。それぞれの笑顔が、たくさんございました。

また、活動はいろいろに展開します。水質調査部会、水質浄化部会、生物調査部会のほか、小学校の教育活動や、中井町や大磯町ともつながり、さまざまな方面からご協力賜りました。それから、自然に親しむ会を立ち上げるグループ、体験イベントを企画するグループなど、新しい世代の参加もいただき、気が付けば、頼もしいほどゆたかな広がりを見せていました。

今では、湘南の清流と言えるほど、美しい葛川。町民のみなさんが健やかに、そして安心して暮らしていける、そんなやすらぎとこちよさを感じさせてくれます。

これまで活動に参加してくださったみなさんをはじめ、行政の立場から取り組んでくださった役場の方、応援してくださった町民の方々。ほんとうに、ありがとうございます。

未来の橋の上では、懐かしい顔が集まって、みなさんなんだか嬉しそうに、美しい川と、新しい人々を、穏やかに眺めています。

特別寄稿

飛澤 洋子

「葛川をきれいにする会」と私

9月20日。葛川の土手には、紅白の彼岸花が咲いている。

地球温暖化で季節が狂い始めているにもかかわらず秋に咲く彼岸花、あの世からメッセージが送られてくるみたいに咲いてくれる。

数日前、軒吉橋から清水橋の土手の草刈が終了。大きな木も伐られ、随分見晴らしが良くなった。チャンスとばかり土手のごみ拾い開始。燃えるゴミ45L、缶15、ビン8本とペットボトル1本は洗浄してリサイクルへ。破砕、金属、家電と有害ゴミを回収。5時から11時まで6時間、かなり疲れたが、一気にやってホッとした。木の下や土の中に埋もれていたこの物たち。環境汚染がいわゆるマイクロプラスチックにならない様、小さなプラも見つけての作業。また、ゴミがある所はゴミを捨てやすい所でもある。捨てさせないためのゴミ拾いと思っている。

この会には、2003年9月入会。2011年5月から始めた私だけのゴミ拾いも10年経ちました。今年、ポリ袋からマイバスケットでの回収に切りかえた。同志であり尊敬する先輩Nさんは賛同、即実施された。「会」でも提唱。すぐ反応したのは女性たちである。Sさんはバスケット5個寄付。胴長まで用意されたYさん、手袋、トングも私物。女性たちは柔軟だなあ〜！男性は1人だけだった。この会も20年。最近は子どもと保護者なども含めて増加、いい傾向である。会員への連絡、活動するための準備、後片付けと役員だけに負担をかけているのでは？主旨に賛同し共に活動しようというボランティア、自発的に参加、活動する。一人ひとりが、自分の分は自分で用意する心掛けが必要では？

葛川沿いを歩く。水の流れる音。川が見えた。花が咲いている。木の枝に止まっていたカワセミが川に飛び込んだ。口に魚をくわえている。アオサギが川の中で、じっと獲物を狙っている。エビを捕まえたが何回も取り落とし、やっと呑みこむ。若鳥かな？未熟なのだろう。そのうち上手になるでしょう。川には沢山のオイカワが泳いでいるから。

この夏には、子どもたちが川で魚など捕っていたらと思うられるアミなど置きざりにされていた。また来るのかな！ファミリーでの姿も見られた。若人ペアも見かけた。

私が土手の草刈を始めて何年経ただろうか。「生き物観察」があるということで、階段の清掃から草刈まで発展、鳥の隠れる所も必要と思いつつ、対岸にうっそうとした繁みがあるからいいのではないかな。

きれいな川の流れを見て散歩するのは気持ちのよいものです。この川には、水の浄化作用があるEMという活性液を流しています。ゴミ拾いと活性液の相乗効果で汚れた川が、子どもたちも遊べる川に甦ったのは嬉しい。きれいになった葛川をこれからも維持してゆくことが私達の使命。この活動のなかでゴミをださない、だからポリ袋の使用の減少からマイバスケットを提案。ゴミ拾い、いつまで続けていけるかなあ〜。

特別寄稿

梶 一成 シンポジウム「葛川から見えてくる二宮の未来」に寄せて

二宮に住み始めて26年。

当時はまだ、冬は水量も少なく川底の石にはミズワタがつき、夏の暑い日には底泥のへドロがチョット臭い「どぶ川」の姿を残していた葛川。

そこでゴミを拾い、川をきれいになりたいという人々の活動を目の当たりにし、私にも何かできることは無いかと考えていました。

何度か清掃活動にも参加し、「コイ以外にもけっこう魚がいるな」と感じました。

以前、水質の検査・分析、水生生物調査などを業務としていましたので、少しはお役に立ちそうだと思います、手始めに葛川の水質調査に参加しました。その後、水生生物の採取調査にも協力させていただき、葛川流域でのホトケドジョウ、アブラハヤなどの魚類やカワトンボ、フタツメカワゲラ、ヘビトンボなど比較的きれいな川に棲む水生昆虫の仲間の生息も確認できました。

これがきっかけで、今ではエコフェスタの一環の「葛川に親しむ会」で生き物調査の講師もさせていただいております。

この間、中井湿生公園の改修や下水道の普及などによる葛川の水質・水量の改善は目を見張るものがあります。

もちろん、そこに棲む生き物も多様になり、川底には砂や小石、初夏にはアユが遡上し、一年中カワセミが飛び回り、まさに「清流」に戻りつつあります。

これも「葛川をきれいにする会」の清掃活動をきっかけとした、町民の葛川への心の変化によるものと考えられます。

しかしながら、相変わらず川にゴミや野菜くずを捨てる方、コイにパンくずなどのエサをあげる方が少なからずいることも事実です。

川はその流域に棲む人々の生活を映す鏡です。

そこに棲む人々にはその生活を通して川の環境を良くし、町全体の環境改善につなげていくことが求められています。

私も生き物との関わりを通して、微力ながらそのお手伝いをして参ります。

よろしければ皆さんもそれぞれの得意分野で一緒に！！ (元川崎市夢見ヶ崎動物公園園長)

特別寄稿

門間 光次

葛川でゴミ拾いと虫捕り

葛川も二宮町も知らなかった私が、初めて葛川の清掃に参加したのは2007年の7月でした。あれから14年経ちました。早いものだと思います。私は相模原市に住んでおり、葛川へ来る際は藤沢経由で二宮駅で降りて歩くか、清掃の場所によっては秦野駅でバスに乗ることもあります。そんな遠くから何でわざわざ来るの？と聞かれることがあります。自分でもよくわかりません。コロナの影響で清掃活動に殆ど参加しないのは、遠い事が原因だとは思いますが。来るときは良いけれど、汗びっしょりで帰ったり、濡れたズボンで電車に乗るのが恥ずかしい事もありました。

葛川へ来るきっかけは、環境科学センターの講習で、藤田さんの話を聞いたことです。相模原市でもいろいろな活動がありましたが、なぜか続きませんでした。別に葛川が好きとか、ゴミ拾いが面白かったわけではありません。今思うのは結局は人なんだなと思います。もともと人付き合いが苦手な私が、今までなんとかやってこられたのは、周りの人たちのおかげだと思います。別にむづかしい話をするわけでもなく、むづかしい作業をするわけでもなく。淡々とゴミを拾って仕分けして、終わったら「お疲れさん」と解散する。そのシンプルさが私には気持ち良かった。今でもボランティアの原点は葛川にあると思います。これからも原点を忘れず出来る限り続けたいと思います。

最後に虫取りのことを話します。葛川へ来たころから、神奈川県内の河川で虫を捕り、分類のまねごとを始めました。そのスキルを活かして葛川の調査も行なっています。毎年3月に採取して、翌年の記録集に結果を載せています。川の中には様々な生物がいます。捕まえるのにさほどの技術はいりませんので、興味ある方は是非ご参加ください。

会員等の声

伊藤 仁

「葛川をきれいにする会」に感謝をこめて

人は年齢と共にその人間関係は小さく、そして狭くなってまいります。種々の社会活動に参加する事は、それを広げる最適な方策であると気付きました。

たまたま「葛川をきれいにする会」は、色々な年代の人々、色々な経験を経た人々、そして色々な考え方をする人々、更に男性と女性で構成されております。

私はこの「会」に参加をきっかけに、一気に色々な方々と人間関係が拡大しました。

「葛川の会」は参加に当って特別な体力・技術は必要なく、誰でも気軽に参加でき、誰でもその力を発揮できる場のあるボランティアグループであり、その最良の活動に出会えた事を感謝しております。

奈良 淑子

初めて、葛川に下りた。JR ガード下に財布落としたから。石垣を降りようとしたが、危なくてすべる、大回りして辿り付き回収。中身は五百円だったが。水は意外ときれいで、さらさら流れており、ごみさえなければせせらぎかな。それから 10 年後、川掃除に参加、ついに川は私の一部に。

かって山北洒水の滝の上、杉林をよじ登り山の上でっぺんめざした私と父、姉 3 人。林をでたら大小の石が並びその間をさらさらと水が流れていた。3 人共静かだった。言葉はなかった。忘れない光景。

川とごみ問題ってビニール製品が出来て流通してからですよ。自分達で作った物で自分の首をしめるだけでなく他の生物もいじめている。悪いやつだね一人って、せめて老骨にむち打ってごみ拾いましょ。

生き物にやさしいあなたに期待していますね。ありがとう。

黒崎 稜

「葛川の未来」

僕は 5 月頃に社会貢献活動に入り、そしてクリーンアップのために葛川や数多くの川で清掃をしたりしました。しかし、葛川の中には家で使っていた物、外で使う日用品が川の中に数多く見つかっています。このままでは、さらに多くの人が葛川などにゴミを捨て、ごみの川とかになってしまいます。

僕は、少しでも葛川のことを知ってもらうために清掃ボランティアに参加してもらいたいと思いました。そして、もうこれからは、川などにゴミを捨てないということを心がけてほしいです。(所属；湘南工科大学)

野谷 悦

「二宮町第4次総合計画」をつくるための「百人委員会」に参加。その「百人委員会」の終了後「葛川をきれいにする会」立ち上げに参加。以来20年ずっと役員も務めています。こう書くとずっと熱心に活動していたように取れますがそうではありません。会務はその時の中心役員にお任せし名ばかりの役員でした。清掃にも都合のつくときだけ参加していました。

「葛川をきれいにする会」が20年続けることができたのは、その時々には清掃に参加してくださった皆様はもちろん、立ち上げ時の向後さんの発想力と実行力、田中さんの実務能力。それから小林代表の人柄、そして長い間ワンオペ状態を一人でこなした門脇代表など、中核を担った人たちの努力のおかげも大きいと考えています。いま新役員、会員、湘南工科大学学生のおかげで清掃参加人数が増えてきています。いま「葛川をきれいにする」という想いが、勢いを持って広がってきていることを感じています。

関口 純枝

葛川の未来

昨年、軒吉橋の近くに転居しまして、今年の桜の咲く頃より川沿いを時々ごみ拾いしながら散歩するようになりました。ごみは缶、ペットボトル、タバコ、レジ袋に入ったプラも捨ててあります。出来る限り続けていきます。また、葛川整備計画のイメージ図を見まして、楽しみにしております。

余談ですが、私は園芸が趣味で、桜の蕾など見ますと頑張っって咲いてありがとうという気持ちになります。川の周りにも季節により、色々な花が咲いています。発見して、こんな所に咲いているのねと嬉しくなります。仮宿橋の傍らに早咲きの桜を見つけました。

私は家に引きこもるタイプで、課題として、葛川にかかる橋の花マップなど作製してみたいと思っています。

森田 恵

私の所属する湘南工科大学は、この会に毎年、社会貢献活動の実習生を受け入れて頂いています。学生たちは、多様な知識や経験を持つ会員の方々から川や環境、地域の事、また就職関連など様々な情報や気づきを得ています。学生は毎年変わる中、会の皆さんは変わらず笑顔で鷹揚に迎えてくださり本当に感謝しています。学生に川の掃除をさせながら地元の自分がやらないというのはマズイ、と会員になりました。おかげで地元の方々や他の活動とも出会うことができました。町内で顔見知り「こんにちは」と挨拶ができると、この町に住んでいる！という実感と愛着がぐんと湧いてきています。学生が関わることで、会にもささやかな風が吹きます。その風が他の風と連なって、二宮のすべての生き物たちをますます元気に笑顔にしていきますように。

道路からはしごで川におりると、見慣れた町が消える。
流れに長靴を入れる
川の中を歩くのは不思議な感じ
ゴミを見つけようと目を凝らす
おはぐろトンボ、葦の原っぱ
ひっかかっているレジ袋
掘り出した飲み物の容器を川で洗う
水質検査は下流と変わらない
でも、透き通った水は清流のよう
あっ、今日は小さな魚が沢山
なんだか嬉しい
小さな黒いビニールのかげら
流れてきたのをエイッとつかまえる
こんな小さいのつかまえたって・・・
だけど、海ではマイクロプラスチックかな
川が遊び場だった（かつての）子どもたちは軽々と
歩いて先導してくれる
川はあの頃と同じように流れている
いつか戻ってくるかな
子どもたちの笑い声

松崎 健

「葛川をきれいにする会。何をする会なのかすぐにわかります。」と知人に言われました。入会して約3年半が経過。その間月2回、年間計画で決められた場所に9時25分に集合。川面でゴミを拾う人、ゴミを橋の上から引き上げる人、集めたゴミごみを分別する人、役割を粛々とこなし、昼前には作業は終了して解散。この繰り返しが会の活動の軸です。

葛川はこの町のシンボリックな川。その川面から見る風景は実に新鮮です。足元を泳ぐ鯉、上流に行くほどに増えていく小魚の群れ、カワセミをはじめとする鳥たちを目の当たりにすると「清流まであと一歩」という言葉がよぎります。もっと綺麗にして、誰もがこの風景を目の当たりに出来たら素晴らしいと思います。

私たちの会では、県が進める河川整備事業に併せて、川面を散策できる沈水式遊歩道の設置を働き掛けたいと考えています。誰もが川面から更に綺麗になった葛川を堪能できるようにしたいと考えています。

熊谷 優作

会に参加して

私が葛川をきれいにする会に参加したのは、ちょうど一年前になります。参加した経緯は、大学の社会貢献活動でこの活動のことを知り、以前から川清掃に興味があったので、参加させていただきました。

初日に参加した時は、初体験のことばかりでとても新鮮でした。川には幼い頃によく行って慣れていましたが、胴長を着て川に入った事はなく慣れていませんでしたが、川の水に濡れないで歩いて進むというのは、経験はなくとても楽しかったです。また、川を掃除して川から上がって川を見下ろした時、掃除は掃除でも部屋の中を掃除した時とは違った達成感があり、すごく気持ちよかったです。

最後になりますが、会が今年で二十周年と聞き初めはとても驚きました。この活動が二十年間も川を守り続けている事に、尊敬いたします。(所属；湘南工科大学)

原 直奈子

葛川清掃で思うこと

町の中心を流れる葛川。ほんの少し勇気を出して下りてみると、そこにはちょっとした自然の別空間があります。水の流れる力を足元にしっかり感じ、春は桜の花びらの漂う川面に触れ、時にはカワセミの輝く青い光を一瞬みつけ、軽やかにすり抜けて行く小魚の姿に、大雨の時は一体どんな形相でやりすごしているのだろうかー、などと想像をかき立てられながら両手に不用物を拾い集め、水で重さのましたゴミは満身の力を込めて引き上げられて行く。そして根気よく分別しながら作業の振り返り。ここでは誰もが助け合いながら、一緒に楽しく汗をかいています。

川に関心を寄せる人が増えるほど、葛川は自然に満ちて美しくなります。地域の人々が環境美化に向けての活動を維持することにより、安全な生活を守るための治水事業が、より環境に配慮された形になるきっかけの一つになれば、と願います。

藤田 尚志

葛川そのものがビオトープだ！

定年退職直前に横浜から二宮に移住して来ました。海・山・川がきれいで自然豊かな町を想像して来ましたが、葛川だけが予想外に汚れていました。2001年10月に葛川をきれいにする会が立ち上がり、私は2002年の3月から入会しました。その年の4月から、環境科学センターの実験設備が市民に公開され、葛川をきれいにする会も早速水質分析を始めました。同時に水質の指標となる魚類の他に水生昆虫も調べることになり、良き指導者と仲間にも恵まれて15年以上継続することが出来ました。

葛川の水質が良くなるにつれて小魚が増え、水質が良い所に棲む水生昆虫が増え、それを捕食する鳥類が多く見られるようになり、葛川そのものがビオトープだと実感することが出来ました。これは素晴らしい体験で、二宮町に移住して本当に良かったと思います。

石井 修

こんな会員も

二十周年おめでとうございます。

私は、平成17年11月から、賛助会員として会に加えていただきました。創設当時の会員で、長年総務を担当しておられた野谷さんに誘われてのことでした。

軽い気持ちで、そのうちに“フェードアウト”するつもりでいました（会員の皆さんごめんなさい）。しかし、いつの間にか16年も経っていました。今でも、賛助会員のままで、唯々、清掃活動で楽しんでいるだけなのですが…やめられないのです。

私のある日の備忘録から、

いつもの時刻に集合場所に行くと、会員の人たちがが、和気あいあいと話をしながら仕度をしていた。私もゴム長靴をつけて、活動開始。桜のトンネルの下で、土手にはフキノトウ、タンポポ。河原にはアブラナの黄、紫花菜の紫。名前も知らない草花が、色とりどりに咲き誇る。流れ着いた種から育ったものだから、毎年、違う所に違った咲き方をして飽きさせない。花に来る虫たち、カワセミ等の鳥の美しさ。水の中にはコイやハヤ、近年はアユも見ることができるようになった。

オッと、「清掃活動」をしているんだった。しっかりゴミを拾わなければ。そういえば、以前はレジ袋のゴミが多かった。橋の下には、犬のフンを入れたものが多かったな。

これを拾うのが一番つらかったけれど、この頃は少なくなったような気がする。これも、我々の活動のおかげかな。橋の上でゴミのカゴを引き上げてくれる人たちが待っている。

この雑多なゴミを分けて袋に入れる作業も大変だけれど、手伝って終わりにしよう。

志を高く持って、幅広く活動されている会員のみなさんは申し訳ありませんが、こんな参加の仕方もあります。

自然環境に興味ある方、まずは一緒に活動してみませんか。

新澤 真由美

葛川清掃に参加して

まだ3回参加しただけの新人ですが、

「川がきれいになったらいいな」

との自然な思いからでした。暖かく迎え入れていただきました。

川の中に入ってみると気持ちよく、ゴミ拾いは宝探しだと言っている人がいましたが、本当に見つけるとうれしい。

いつかこの葛川で昔のように子供達が魚釣りとか、それをお母さんが今晚のおかずにしてくれたりとかできたらいいなと、夢を見ながら、これからも葛川清掃に参加したいと思っています。

吉川 勇

葛川と私

私は農家の末っ子として、終戦の少し前二宮で、生を受けました。

現在の秦野街道が国道と交差する信号の一本西側の道路を北に向かうと、踏切番が常駐していた、今では旧街道と言われる時代の話。JR の線路の下、長寿橋から覗くと堰どめの痕跡が見られますが、田植えの時期になりますと、幅1メートル位の用水路が塩海橋まで田んぼを潤し流れていました。

また、お盆に堰どめで水嵩のました葛川で、たぶん倉田橋あたりから数回灯籠流しを見た覚えがあります。私は小さい頃からずっと葛川を「屑川」と思っていました。

川に入れるのが面白そうに入会しましたが、もともと膝痛もちで2回目位で水没し、前会長の門脇さんには迷惑をかけました。少しでも働けるうちは、「陸部隊」でボチボチやっついこうと思っています。

鳥居 仁

発足二十年を迎えて

有志11名の方が、「葛川の浄化」に向けて発足し二十年が過ぎました。この間多くの課題を克服して先輩ボランティアの方々のご努力により、会が存続され今日に至った事に深い感銘を受けます。

現在葛川の浄化は会員皆様のご尽力によりかなり進み、「生き物観察会」ができるまでになり、川に入るのに抵抗がなくなるまでの状況になりました。

今後はより魅力ある「葛川」にするために、魚道の整備や遊歩道の設置などをして町の人たちが親しめる環境を確保する必要があると思います。これには行政等にはさらなる積極的な関与が望まれます。

最後になりましたが、私も入会十数年余り、これからも少しでも会の力になれるように頑張りたいと思います。

竹本 洋子

花筏とカワセミ

はるうららの4月。下浜橋の近くの川は、桜の花びらでいっぱい。いくつもの花筏が集まってゆっくり流れてゆきます。

また、葛川橋付近では、運が良ければ、カワセミに出会えます。カワセミは、エメラルドグリーンの洋服を着た本当にきれいな鳥。でもこの葛川も清掃を始めたころは、とても異臭の川だったとのこと。先輩方の丁寧な仕事がかきれいな葛川を作ってくれました。仲間に入れてもらって三年ほどの私は、とても感動しています。

武田 紗季

「葛川をきれいにする会」と21歳の私

私が大学1年生の春に、葛川をきれいにする会の活動に参加してから今年で3年目となりました。

1年生のときの私は自分を変えるきっかけにしたいという一心で参加したものの、人見知りをしてしまう性格は隠せず、活動に積極的になることができませんでした。でも、会の方々が私にたくさんの温かい言葉をくれました。活動1年目が終了する頃には、「会の力になりたい」と、考えるようになっていました。

現在、ホームページの運営や、ビラ作成などの大役を引き受けさせていただいています。今年度の清掃参加者は過去最多数を記録し、高齢化・後継者不足という問題解決に少しずつ近づいていると感じています。

第一・第三土曜日の午前中という短い時間ですが、「葛川をきれいにし、町民にとってより身近にしたい」という同じ志を持った老若男女で集う時間が素晴らしいと思います。この活動をずっと続けていけるように、これからも若者として全力を尽くしたい。

(所属；湘南工科大学)

守田 智恵

会の魅力

2017年11月から当会に関わるようになって、それまでとは違う心地よさ、二宮町って良いなという想いをより強く感じるようになりました。入会したことで、他の様々な活動団体のことも知るようになり、活動している方々との交流も増えたからです。

当会の最大の魅力は何といても、実践第一で継続されてきた会員の方々。

『誰もが水遊びできる綺麗で安全な川を目指す』という活動目標を知って、さらにビックリ。「生き物観察 葛川に親しもう会」開催で、会の魅力がさらにパワーアップしたと感じます。

活動に参加できない日もありますが、自分の出来る範囲でこれからも楽しく関わっていきたいと思っています。

万年橋から貝ヶ窪橋へ向かう葛川沿いの水音が好きです。みなさんのお気に入りの葛川はどこですか？

勝又 真一

葛川清掃について

小生が小学生の昭和 50 年代、葛川はゴミの投げ捨てが目立ち、水質も悪く「屑川」と揶揄されるような汚い川のイメージでした。その後鯉の放流など綺麗にする取り組みで徐々に綺麗になっていったと記憶しています。

ゴミが捨てられていると、「私も捨ててしまおう」という軽い気持ちになり負の連鎖が生まれてしまいますが、皆様方の取り組みで「ゴミを捨ててはいけない」気持ちになってくれる効果はあると思います。今後は外来生物の不法投棄などにも目を向けていく必要もあると思いますが、生き物が住みよい川になったことは非常に嬉しく思います。

活動を続けること、後世に伝えていくことが大切だと思います。今後も是非、家族で参加していきたいと思っています。

勝又 美智子

葛川清掃に参加して

二十周年、おめでとうございます。

清掃活動と言うと、気持ちがトーンダウンしてしまう人もいらっしゃると思いますが、自分も川に入ってみると、ゴミを拾っているのですが、風が気持ちよく、川の流れも足にひんやりとして、雑多なことを忘れ、さわやかでした。足が川の水に取られそうになったり、川の流れがきれいな所もあったり、楽しかったです。

子供が新聞の折り込みチラシを見て、「行ってみたい」と参加しはじめました。普段は、コロナの影響もあり、家でゲームばかりなのですが、葛川清掃には、子どもは行きたいみたいです。家族で自転車で出掛けて、大勢で川に入り、ゴミを拾うのが、楽しみの一つになっているようです。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

勝又 清美

川そうじ

私は、初めてここに入った時は、まあ、ふつうに、楽しそう、ていう理由だけで入ったんですが、実際入ってみるとそれだけじゃなくて、ここは水がふかいとか、ここは魚がたくさんいる、とか、ここは流れがはやい、とかそういうことがたくさん分かって楽しかったです。

ゴミを持っているときは、たとえばこの前の所はゴミをとってもとんでもなくならなくて楽しかったですけど、少しざんねんな気持ちになったり、でもふくろいっぱいゴミをとれたときは、たっせいかんがあって、うれしい気持ちになります。

くず川は自然もいっぱい、上から見ていただけでもあきませんね。この前なんか本物のカワセミを見つけました。とてもきれいでした。

私は、くず川の会とても楽しいと思っているので、毎回楽しみにしています。また次も楽しみです。

かつまたまさみ

川そうじ

たのしかった川そうじ。

辻村 ひかる

葛川をきれいにする会と私

私が葛川をきれいにする会と出会ったきっかけは、令和3年5月に行われた『葛川に親しもう会の生き物観察会』に参加したことです。

身近にあった葛川に入ったことがなかったのですが、実際には入ってみるとゴミもなく、川の水がとても綺麗であることやたくさんの生き物がいることを知りました。これからの葛川清掃に参加し、葛川を守るお手伝いをしたいと強く感じ、私は葛川をきれいにする会に声をかけさせていただきました。

星槎学園湘南校の生徒も二宮町の駅周辺や海の清掃活動などで地域貢献をしています。また、生き物が好きな生徒も多いので、葛川清掃をして、生き物を大切にすることを身近に感じさせたいと思いました。

これからは、葛川をたくさんの人に身近に感じてもらうこと、清掃活動を通して生き物を大切にしてお手伝いを生徒としたいです。(所属；星槎学園高等部湘南校)

箱石 聡美

数年前、葛川で一羽の白鳥の姿を見かけました。空高くからこの細い葛川を見つけて、仲間から離れて一羽で過ごす、寂しいだろうな…とその時私は思いました。

そして現在のコロナ渦。私は三密を避けて、葛川の辺りで友達と密会（密会ではない笑）を三回行いました。その際、必ず、背中を丸めてビュー！と飛んで行くカワセミを見ました。「なぜそんなに急いでるの?」と聞きたくなるくらいの猛スピードです。川岸では鴨のつがいがグワグワ鳴いていて、その側で小さな鳥がピシャピシャと水浴びをしています。あの白鳥のことを私は思い出しました。小さな鳥達に囲まれて、豊かな時間を過ごせたのかもしれない。葛川を選んで正解だったのです。

渡り鳥が、「あそこなら」、と思える環境を整え続けてあげたいです。

長田 信夫

葛川との出会い

30年ほど前だろうか、朝5時頃に倉田橋の下流にダイサギ(?)が50羽ほど集まって会議をしていた。また何年かして、明るいブルーの背中の鳥が橋の下に生えているアシに止まっていた。カワセミだった。それから葛川のカワセミマップを作るなどしていたら、生き物や風景だけでなく、視線が段々と川のゴミに集まるようになってきた。

近所の人(なんと会員の人でした)に葛川はゴミで汚いねと話したら、「葛川をきれいにする会」があるよとすすめられて、5年前から会に参加しています。この頃、ゴミの本や番組見るようになり、ますます大事なことだと思い始めた。諸先輩が続けてこられた「川のゴミをひろう」ことをこれからも続けていきたい。

田邊 由美子

私の小学校時代の通学路には、鉄道のガード下を通る所があり、その下を葛川が流れていました。その頃の葛川は、空き缶やプラゴミだらけで、こんな川には魚も鳥も住めないだろうなあとちょっと悲しい気持ちで見えていました。しかし、今はそうしたごみがほとんど無くなり、本来の川の姿を取り戻していると思います。カワセミやサギなど、いろいろな鳥を見かけることが多くなりました。これも会みなさんの長年にわたる地道な活動のおかげと、本当に感謝しております。先日、私も初めて活動に参加させていただきました。お借りした胴長と長手袋姿で、脚立で川面に降りました。台風明けの水かさの増した川中でゴミを拾うのは、結構大変でした。ゴミを拾い、回収し、分別する作業が、全員で連携して手際よく行われ、清掃活動は一時間ほどで終了。皆さんに助けられ、私も楽しく作業をすることができました。次回も是非、参加させていただきたいと思っています。

細川 三男

思い出すこと

葛川をきれいにする会が清掃活動をはじめから20年になっただろう。私がこの活動をはじめようとしたのは近所に住むK0さんから誘われたのがはじまりだった。ふりかえってみれば活動中の忘れられないことが昨日のようによみがえってくる。ある清掃日のこと川岸に足に紐をからませた一羽のハトがけがをしていて、そのハトをK0さんが家につれてかえり治療をして元気になってから放した、ということを知った。いいはなしだと思った。富士山への清掃活動もなつかしい。樹海の中に捨てられた違法な産業廃棄物なのだろう、土に埋まったそれらは日常生活に使われたあらゆるものだった。葛川に捨てられたものと変わらない。人間の営みの知られざる一面である。Sさんは葛川の清掃以外に山にも関心を向けていたのだと知った。私たちの活動は清掃だけではなかった。地域の環境をよくする会、という素晴らしい名前の団体があって、そのなかにHさんがいた。Hさんは樹木医であり、吾妻山の樹木や菜の花の手入れをしていた。環境についていろいろ話してくれたことが忘れられない。

KAさんにはよく平塚にある県の土木課によくご一緒した。会の代表をしていたので活動の報告や計画書など届けて帰りには、途中にあるコーヒー店になんとか行ったことを思い出す。K0さん、SさんHさんそしてKAさんもいなくなり、あの頃が今では昔のことになってしまった。現在はどうか。会は若い人がふえ活気があり、葛川も本当にゴミが少なくなってきたと感じる。私たちの活動のせいなのだろうか。美しい川になってよみがえり、野鳥が小魚をとる姿を近くで見られる。二宮町には明るい未来があると思う。活動をはじめた人たちが思いえがいたことが確信になった。しかし活動はこの先も続けていかなければならない。三百回の清掃は通過点でありゴミが少なくなってもなくなることはない。わたしもまた元気であるかぎり活動の仲間でありたい。

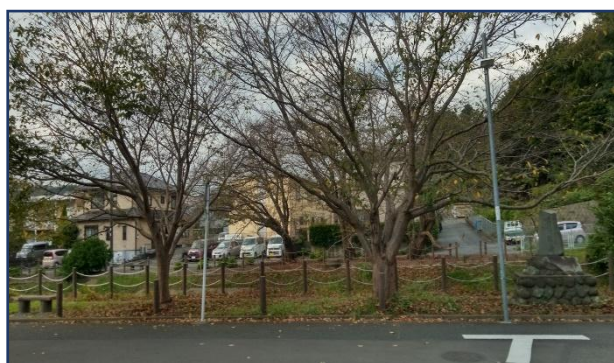
活動記念樹 桜 “ソメイヨシノ” の紹介

藤田尚志

葛川をきれいにする会では活動記念樹として葛川の土手に桜・ソメイヨシノを植樹しています。その経緯と現在の姿を紹介します。植樹の様子は活動記録集第2号から以下に転載します。

「平成16(2004)年3月20日、小雨降る中ソメイヨシノの苗木5本を植栽した。場所は小田原厚木道路下歩道に3本、西友隣葛川橋土手に2本の2箇所を県平塚土木事務所立会いのもとに決めた場所である。桜の植樹は許可できないという平塚土木事務所を説得し、特別許可を得て植樹したものの朝日新聞(省略)にあるように、相次いで折られたり、抜かれたりした。植え直したものの現在は小田原厚木道路下のソメイヨシノ2本と八重桜1本が残っている。(八重桜は、現在はない)

嫌な思い出も出来てしまったが、3本が立派に育つのが楽しみである。」



東側から見た2本の桜・ソメイヨシノ

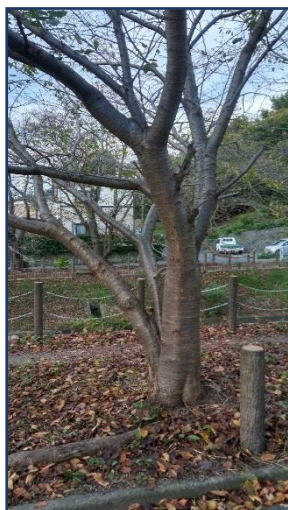
現存している2本のソメイヨシノ

植樹は2004年3月なので2年生の苗木だったとして樹齢は19年程度と推定される。

植栽の場所は小田原厚木道路南側約30m葛川左岸です。

便宜上、写真で左側の桜、右側の桜とする。

(撮影 2021.9.22)



左側の桜



右側の桜

2021年10月13日現在の桜

	左側の桜	右側の桜
樹高 (目測)	約8m	約8m
幹直径 50cm高	31と25cm 2本株立ち	52cm
樹勢(目視)	良好	良好

2021.6.21 アサヒ m.

「葛川きれいに」ごみ拾い300回目 二宮



二宮町で川のごみ拾いを続けてきた「葛川をきれいにする会」の清掃活動が、20日で300回目を迎えた。2001年秋に活動を始め、今年は20年の節目の年でもある。

「あっ、電池」「なんでこんな所にブレーカーが落ちているんだろう」

親子連れら約30人の参加

者が、袋やカゴを手にごみを拾って回った。1時間ほどで20袋ごみ袋10袋分を超えるごみが集まり、みんなが仕分けした。創立時から、の会員で元教員、野谷悦さん(69)は「最初のころは自転車やバイクも回収した。少なくなっただけです」と言った。

平塚市の大学3年、武田

紗季さん(21)は環境問題に関心があり、2年前から参加している。「環境問題を肌で感じたかった」といい、会のホームページづくりも担った。教員の山田里花さん(60)は昨秋に入会。川面に立つと「世界が違って見える」という。

かつての葛川は、ごみが多くにおいもした。町の総合計画づくりに関わった住民の一部が「町一番の問題は汚れのひどい葛川」と考え、2001年秋に会を作ってごみ拾いを始めた。

活動は年に15回ほど。回収したごみの量は昨年度、600キを超えた。水質検査や、子どもたちが対象の魚などの観察会も開く。

地域住民に川に親しんでもらうことが環境改善につながることを考え、会は親水施設の設置を提案している。長田信夫代表(71)は「300回は通過点。みんなで楽しみながら活動を続け、案を実現したい」と話す。

(斎藤茂洋)

タウンニュース 2021.6.25 No.1373 大磯・二宮・中井版

清流復活へ清掃300回

二宮の葛川をきれいにする会



300回目の葛川清掃に集まった会員と協力者たち

町内で実施された環境啓発イベント

この日は、村田邦子町長と新会員の参加も

「ごみが多い」と代表の長田信夫さんは話す。

「川がカーブした所はごみが多い」とマークや入通りの多い場所

「今日の7袋分。人が集まるスーパー

「ごみなどを回収し、分別した。もえるごみが町指定のごみ袋で

「20日の清掃には、これまでに最多の35人が参加。約1時間かけて川の中や土手のごみを拾い集

「二宮町のボランティア団体「葛川をきれいにする会」が6月20日、萬年橋周辺で川のごみ拾いを行い、清掃活動が300回に達した。誰もが水遊びができる清流の復活を目指し、20年にわたり活動を続けてきた。

町内で実施された環境啓発イベント

この日は、村田邦子町長と新会員の参加も

「ごみが多い」と代表の長田信夫さんは話す。

「川がカーブした所はごみが多い」とマークや入通りの多い場所

「今日の7袋分。人が集まるスーパー

「ごみなどを回収し、分別した。もえるごみが町指定のごみ袋で

「20日の清掃には、これまでに最多の35人が参加。約1時間かけて川の中や土手のごみを拾い集

「二宮町のボランティア団体「葛川をきれいにする会」が6月20日、萬年橋周辺で川のごみ拾いを行い、清掃活動が300回に達した。誰もが水遊びができる清流の復活を目指し、20年にわたり活動を続けてきた。



葛川のごみを拾う参加者

町内で実施された環境啓発イベント

この日は、村田邦子町長と新会員の参加も

「ごみが多い」と代表の長田信夫さんは話す。

「川がカーブした所はごみが多い」とマークや入通りの多い場所

「今日の7袋分。人が集まるスーパー

「ごみなどを回収し、分別した。もえるごみが町指定のごみ袋で

「20日の清掃には、これまでに最多の35人が参加。約1時間かけて川の中や土手のごみを拾い集

「二宮町のボランティア団体「葛川をきれいにする会」が6月20日、萬年橋周辺で川のごみ拾いを行い、清掃活動が300回に達した。誰もが水遊びができる清流の復活を目指し、20年にわたり活動を続けてきた。

アユも遡上

年16回、冬場を除く月の第1・3土曜日に清掃活動を実施。水質検査や魚類・底生生物調査のほか、子どもを対象に生き物観察会を開催するなど、葛川に親しむ機会を作っている。きれいに

町内で実施された環境啓発イベント

この日は、村田邦子町長と新会員の参加も

「ごみが多い」と代表の長田信夫さんは話す。

「川がカーブした所はごみが多い」とマークや入通りの多い場所

「今日の7袋分。人が集まるスーパー

「ごみなどを回収し、分別した。もえるごみが町指定のごみ袋で

「20日の清掃には、これまでに最多の35人が参加。約1時間かけて川の中や土手のごみを拾い集

「二宮町のボランティア団体「葛川をきれいにする会」が6月20日、萬年橋周辺で川のごみ拾いを行い、清掃活動が300回に達した。誰もが水遊びができる清流の復活を目指し、20年にわたり活動を続けてきた。

葛川憲章

- 1 葛川を蘇らせるための清掃とあわせて、町民の「川をきれいにする」という意識を育みます。
 - 2 失われつつある葛川の自然環境の復元と水質保全をはかります。
 - 3 「水のある風景」としての葛川を守るために街並みや景観の保全につとめます。
 - 4 誰でもが水遊びのできる、きれいな安全な川としての親水性を考えます。
 - 5 「川は財産」と考え、町民に広く呼びかけて基金を設立し、維持管理など財産をまもるための活動を支えます。
-

葛川をきれいにする会 会則

- 第1条 この会は、葛川をきれいにする会（以下「会」）という。
- 第2条 会は、主として葛川流域の環境の保全を計り、二宮町およびその周辺地域の良好な生活環境の維持・推進に寄与することを目的とする。
- 第3条 連絡事務所は代表宅に置く。
- 第4条 会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる活動を行う。
(1) 葛川（その支流を含む。以下同じ）清掃・美化、水質改善、水生生物調査、水質調査等
(2) 葛川の環境保全に関する学習および環境保全意識の普及
(3) その他会の目的を達成するために必要な活動
- 第5条 会員は正会員・学生会員・賛助会員とし
会費は年会費・正会員2,000円 賛助会員一口1,000円以上 学生会員は無料とする
- 第6条 役員は 代表・副代表・事務長・会計担当・専門担当若干名 兼任は可能。
会計監査は2名とする。任期は2年 再任は可能。
- 第7条 活動年度及び会計年度は毎年4月1日より翌年3月末日まで。
総会は毎年4月第二土曜日に催行。
定例会は6月・9月・12月・翌年3月第二週に催行（諸案件を検討）
総会・定例会の議事進行は事務長が行い（代行も可）議決は正会員の過半数で成立する。
- 第8条 (1) 清掃作業は、原則として3月から11月までの第一及び第三土曜日の9時30分からとする。
(2) 雨天、等の事情で作業を中止することがある。午前8時の気象状況等による降雨確率70%以上は中止。翌日（日曜日好天で増水してないときは清掃作業を行なう）
(3) 事務長（代行可）は、活動記録を二部作成し、二宮町環境課と神奈川県平塚土木事務所に提出する。
- 第9条 活動を中止（退会等）する時は役員に連絡する。
- 第10条 会則変更は定例会（又は役員会で）検討して総会で承認を得る。

2012年4月14日改正

二宮と葛川の歴史

年		二宮の歴史	葛川と 葛川をきれいにする会	二宮町の 人口 ()は下水道 敷設率/計画	葛川橋 BOD 「にの みやの 環境」 より	
500万年前		吾妻山をつくる層(基盤岩)ができた。(鷹取山礫岩層)				
40万年前		貝ヶ窪付近の葛川河床の砂岩(二宮層)				
4万年前		葛川には丹沢の水が流れていた。(葛川エピソードp1)				
1万年前から		吾妻山南側の平地ができる(沖積層)				
西暦200 年頃	神話	巖島神社の話(葛川エピソード p3)				
1600年代		万年堤用水路(葛川エピソードp6 ～)				
1815年頃		二宮町田畑用水路図(葛川エピソードp5)				
1873年	明治6年	思文館本校(東昌寺) 二宮支校(知足寺)山西支校(宝蔵寺)				
1878年	明治11年	2つの支校合併して現在地へ(公立二宮学校)				
1889年	明治22年	町村制施行により、5か村は合併して吾妻村となる			5,000人	
1902年	明治35年	東海道線二宮駅が開設される				
1913年	大正2年	馬車鉄道が蒸気機関の湘南軽便鉄道に代わる				
1916年	大正5年頃	花月橋で水泳(葛川エピソードp10)			7,000人	
1935年	昭和10年	吾妻村、町制に伴い二宮町の名称採用				
1940年	昭和15年	1月、二宮の大火(上町、中町69戸全焼、半焼4戸)				
1945年	昭和20年	2月及び8月終戦前、二宮駅周辺・国民学校、機銃掃射を受ける。(8月のみで5名死亡)			12,579人	
1947年	昭和22年	二宮町立二宮中学校開校				

年		二宮の歴史	葛川と 葛川をきれいにする会	二宮町の 人口 ()は下水道 敷設率/計画	葛川橋 BOD 「にの みやの 環境」 より
1955年	昭和30年			13156人	
1963年	昭和38年	百合が丘団地入居			
1965年	昭和40年	一色小学校開校	このころまでは下町に用水路が 流れていた(葛川エピソードp12)	15,246人	
1966年	昭和41年				
1967年	昭和42年				
1968年	昭和43年				
1969年	昭和44年	小田原・厚木道路が開通 する。・西湘バイパス の大磯ロングビーチと二 宮インター間が開通			
1970年	昭和50年			21,640人	
1976年	昭和51年				7
1977年	昭和52年	山西小学校開校			9
1978年	昭和53年	富士見が丘の住居表示 実施	9/8鯉の放流 (葛川エピソードp15)		7
			長寿橋に橋脚がないのはなぜ (活動記録集16号)		
1979年	昭和54年				4
1980年	昭和55年	二宮西中学校開校		27,221人	4
1981年	昭和56年				7.3
1982年	昭和57年	二宮駅橋上駅舎完成、 利用開始			5.8
1983年	昭和58年				6.3
1984年	昭和59年				7.8
1985年	昭和60年		「中里・萬年橋付近の水質は汚い」 (葛川エピソードp14)	28,936人	9.8
1986年	昭和61年				10.2
1987年	昭和62年	吾妻山工事完了			10.3
1988年	昭和63年				7.8
1989年	平成元年		BOD		環境基準 神奈川県
			きれい 2mg/L以下		
1990年	平成2年			29,415人	6.3
1991年	平成3年				6.5
1992年	平成4年				8.3
1993年	平成5年		農業用水		9.2
1994年	平成6年		汚れている 10mg/L以上	日常生活上不快を感じない限度	11.8
1995年	平成7年			30,576人	10.8
1996年	平成8年	11月 緑が丘 町名設定			11.3
1997年	平成9年				10.3
1998年	平成10年				7.3
1999年	平成11年	公共下水道供用開始 (4/1) 生涯学習センターラディ アールが開設		(約10%)	15.8
2000年	平成12年			30,802人	12.8

年		二宮の歴史	葛川と 葛川をきれいにする会	二宮町の 人口 ()は下水道 敷設率/計画	葛川橋 BOD 「にのみやの 環境」 より
2001年	平成13年		10/10「葛川をきれいにする会」発足 「二宮町第4次総合計画」作成の前段で二宮のまちづくりについて議論を交わした当時の「二宮町まちづくり百人委員会」の有志11人が「話し合いだけでなく実践できることを」と呼びかけ、 二宮の中心を流れる葛川の浄化に向け発足。(活動記録集1号)	(約20%)	10
2002年	平成14年	8月 葛川流域3町(中井・二宮・大磯)で『葛川サミット』を発足させる	1/18湘南工科大「学生ボランティア単位制度」へ団体登録する。(活動記録集1号) 6/8 葛川等の水質調査(COD)始める(活動記録集1号より各号で) 6/15EM100倍力器稼働開始(活動記録集1号) 二宮小学校との活動(活動記録集1号,3号7~10号) このころから底生生物調査始める(活動記録集2号より各号で)		7
2003年	平成15年	巖島湿生公園オープン(4/1)		(約20%)	7.8
2004年	平成16年		4/10 EM事業の分離独立(活動記録集1号)		6
2005年	平成17年	2月 第1回吾妻山菜の花まつり開催	11/5「第2回にのみや環境展」の中で三島グランドワーク渡辺豊博氏講演(催行団体)町民センター大ホール(活動記録集4号) 11/20「感謝状」二宮町長(活動記録集11号) 11/28湘南工科大「社会貢献活動」実習受け入れ決定(活動記録集3号) (活動記録集6号より学生の記録あり)	30,247人 (約45%)	7.3
2006年	平成18年		ヤオハン「黄色いレシート」記述あり(活動記録集4号)この年より毎年応募 3/1 100回清掃(清水橋集合)		5.3
2007年	平成19年	9月 台風9号により西湘バイパス崩壊、砂浜喪失	1/27清掃100回記念祝賀会(百合が丘児童館)(活動記録集5号)	(約60%)	5.8
2008年	平成20年	1月 菜の花ウォッチングを開催			8.3

年		二宮の歴史	葛川と 葛川をきれいにする会	二宮町の 人口 ()は下水道 敷設率/計画	葛川橋 BOD 「にのみやの 環境」 より
2009年	平成21年		6/29「表彰状」神奈川県湘南地域県政総合センター(活動記録集11号)	(約80%弱)	5
			10/31「神奈川地域社会事業賞」神奈川新聞社(活動記録集11号)		
2010年	平成22年			29,522人	5
2011年	平成23年		1/21「感謝状」平塚土木事務所(活動記録集11号)		3
2012年	平成24年				1.9
2013年	平成25年		11/11「表彰状」神奈川県知事(活動記録集11号)		2.6
2014年	平成26年				2.9
2015年	平成27年	4月 ごみの広域処理がスタート		28,378人	2.3
2016年	平成28年		ASA二宮の協力により毎回(2017年度からは毎月)清掃近隣地区に「葛川清掃へのお誘い」のビラ配布。(約1,000枚)(活動記録集13号)		1.9
			「葛川水系河川整備計画」への働きかけを始める。(活動記録集15号)		
2017年	平成29年		3/24 町議会は「具体的文言『魚道及び遊歩道の設置』を入れること」を内容とする陳情を全会一致で採択。町議会は同日付で県に意見書を送付(活動記録集15号)	(計画面積の約86%整備。その区域内の下水道接続は7割)	1.9
2018年	平成30年		「エコフェスタにのみや」に参加して「葛川に親しもう会」を始める(活動記録集16号より各号で)		2.2
2019年	令和元年		3月 神奈川県は「葛川水系河川整備計画」を決定。「流域自治体や地域の方々と連携を図り、自然環境や、景観、親水性に配慮した河道や護岸の整備を行うなど、人と自然にやさしい川づくりを進める。」の文言が入る。(活動記録集16号)		3

年		二宮の歴史	葛川と葛川をきれいにする会	二宮町の人口 ()は下水道敷設率/計画	葛川橋BOD「にのみやの環境」より
2020年	令和2年		学生会員が「葛川をきれいにする会」のホームページをリニューアル。(活動記録集18号)ブログ、インスタグラムも始める。とくに若い年齢層の入会広がる。(下図「葛川清掃参加平均人数」)参照	(計画面積の約92%整備。その区域内の下水道接続は8割)	3
2021年	令和3年		葛川の河川整備事業(塩海橋～打越川合流点)設計始まる。(2021,22年度)	27,426人 (1/1付)	
			6/20 300回目の清掃行われる(万年橋集合)		
			「葛川に親しもう会」への応募者増に対応して年2回計画(8/1は新型コロナ感染増のため中止)		
			親子一緒に葛川で遊ぶ姿がみられるようになる		

(作成 野谷悦)

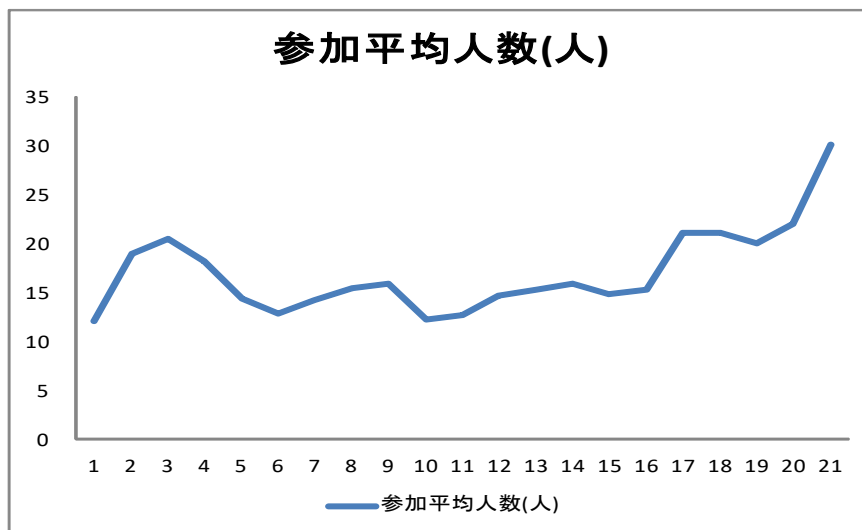
「活動記録集」「葛川エピソード」は「葛川をきれいにする会ホームページ」(<https://kuzugawa.sakura.ne.jp/>)参照
二宮町の

葛川清掃参加平均人数

2001 年

年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
参加平均人数(人)	12	19	20	18	14	13	14	15	16	12	13	15	15	16	15	15	21	21	20	22	30

人



2004年度以降で拾ったゴミの量は
2トントラック13台分

(2001～2003年度はデータなし)

拾ったゴミの重さ

,年度	回収総重量	平成26年 2014年	1,265 kg
平成16年 2004年	5,421 kg	平成27年 2015年	1,145 kg
平成17年 2005年	1,721 kg	平成28年 2016年	1,190 kg
平成18年 2006年	2,139 kg	平成29年 2017年	895 kg
平成19年 2007年	1,225 kg	平成30年 2018年	1,250 kg
平成20年 2008年	1,314 kg	令和元年 2019年	895 kg
平成21年 2009年	974 kg	令和2年 2020年	620 kg
平成22年 2010年	1,226 kg	計	25,782 kg
平成23年 2011年	1,335 kg		
平成24年 2012年	1,435 kg		
平成25年 2013年	1,732 kg		

二宮町生活環境課調べ

編集後記

清掃活動 20 周年記念誌がやっとできあがり、ひとまず安心した。活動を始めたころはゴミが多く、そのうえ臭いもきつくてたいへんだった、という話をきいていた。今はどうだろう。ゴミは減少しており、オイカワなどの魚をはじめいろいろな生物がいる。これは川がきれいになっている確かなことだろう。汚れた川を何とも思わない、そんな社会や町に明るい未来があるのだろうか。

二宮町には希望はある。町が美しくあってほしい、それは多くの人を持っている自然な気持ちであるはずだ。最近、清掃中に声をかけてくれる人が多くなったように思う。活動への関心がおおきくなったのであればうれしい。いつの間にか清掃活動も三百回になり、ここでちょっとふりかえてみたら歩んできた跡がはっきりみえる。この先も活動はきっと続いていくだろう。(細川記)

2021 年 12 月 4 日

編集委員 ○長田 信夫 細川 三男 藤田 尚志 山田 里花

葛川をきれいにする会事務局

野谷 悦

〒259-0123 神奈川県中郡二宮町二宮 832 番地の 20
携帯 090 2744 7154
FAX 0463-72-0004
Mail m.noya212@ezweb.ne.jp

